

伊那史学会の概要

伊那史学会は、郷土誌「伊那」を基にして郷土の歴史や自然や民俗芸能などを調査・研究し、それを発表してきた郷土の歴史愛好者らによる幅広い組織であり団体である。

当初350部で再発足した「伊那」は、毎年目覚ましく会員数を増やし、昭和57年の復刊30周年には5千部に達した。

一地域の地方雑誌として月刊5千部という部数は他に類がなく原田島村老夫妻の献身的努力とともに発展し世間の注目を集めた。

その後、会員の高齢化、活字離れによって会員数は逡減して行った。会員は減少したとはいえ郷土誌で1000名近い会員を擁する会というものは特筆すべき当地の文化の特色であり、復刊以来一度も休刊することなく発刊しているのも誇りである。

平成31年1月現在 通巻1088号、復刊798号、第67巻、第1号発行部数1,100部、 年会費 6,000円（1部550円）。

戦前の「伊那」の歴史

「伊那」の創刊は、織物業若松屋の林栄氏が営業広告誌「はたの友」（昭和12年11月発刊）を昭和13年11月「伊那」と改題し発行した時にはじまる。その後昭和15年11月号から会員制とし山村書院に経営が移ったが昭和17年6月で休刊し、下伊那教育会の歴史部員および同人らが「伊那郷土史学会」を組織し、代表者に市村威人先生、編集主任に福島豊先生があたり発行を継続したが、太平洋戦争の戦局の逼迫と共に軍部の圧力も加わり遂に昭和19年3月「廃刊の辞」を掲げて廃刊となった。

「伊那」の復刊と発展

復刊「伊那」は昭和27年8月に初代、原田島村（昭和60年没）が発行を引き受け、第1号が32ページ、50円、350部で発行された。

編集委員は市村成人先生を筆頭に錚々たる郷土史家の諸先生が加わった。会員は原田島村夫妻が「伊那」を紹介しつつ、伊那谷を限なく巡り歩いて月ごと年ごとに増やして発展してきた。

「伊那」の活動と地域の史学会

郷土の歴史をより深く理解し知るため、昭和28年7月から「郷土巡礼」を企画し、毎月緑の旗のもと多数の会員が史跡探訪に参加してきた。近年の活動は毎月とはいかないが、伊那谷地名の会のフィールドワークとも共催し、464回に及んでいる。

郷土巡礼とともに特筆すべき「古文書クイズ」は昭和39年1月から開始され、現在657回を数え、こうした企画が引き金となって多くの町村史学会で古文書勉強会が活発に行われ、これを教材として毎月熱心な回答が県外からも寄せられている。

史学会の総会である「年次大会」は昭和30年1月から地域史学会協力のもと毎年1月に開催され、各部門の学術講演が行われ、本年度64回を迎える。

昭和31年頃から伊那史学会の地域組織、旧町村単位での史学会結或の動きが始まり、各町村に30以上の史学会が組織され、現在でも8の史学会があり、各町村・地域の史跡の保存、民俗、伝承の収集のほか古文書学習会など積極的な活動を行っている。

この町村史学会こそが「伊那史学会」の最大の基盤であり、地域活動を通じて郷土の歴史、文化を守り育てて行く今日的意義は大きい。

一方、郷土の生んだ天才画家「菱田春草」記念館設立、あるいは柳田国男記念伊那民俗研究所の設立、春草の絵画「菊慈童」購入にあたっては積極的に本会をあげて支援し、最近では「田中芳男胸像復活」や「伊原五郎兵衛碑移転」の募金活動にも協力している。

今後こうした地域文化発展のため寄与して行きたい。

〒395 長野県飯田市宮の上 4048-1 TEL 0265-22-6017

E-mail inasagakukai@mis.janis.or.jp

伊那史学会 三代 原田 島村（望）